

東日本大震災で仕事を失った被災地の女性たちに働くことを通じて生きがいを取り戻してもらおうと、都内の中小企業経営者や会社員らで作るボランティアグループが、服飾メーカーが廃棄した「残布」を利用して、クリスマス用の飾りなどの製作を被災地に委託する事業を始めた。完成した製品は、今月中旬には百貨店の店頭などに並ぶことが決定。同チームでは「被災地の女性たちが抱えている不安や孤独も解消することができれば」と期待している。

(石川純)

# 被災女性癒やす手仕事



残布を使用したオーナメントが飾られたクリスマスツリー(同)

取り組みを行っているのは、渋谷区的一般社団法人「チームともだち」。

東京、千葉、群馬、秋田などの中小企業経営者らで構成され、これまでも、被災地の企業への仕事の紹介や工場で使う機械部品の提供などの支援を行ってきた。



オーナメント作りに参加している大指地区の女性たち(「チームともだち」提供)

支援の一環で、チームメンバーが訪れた宮城県石巻市北上町十三浜の「大指地区」では、漁村の船やワカメ養殖の道具などが壊滅的な打撃を受けていた。漁業は夫婦で取り組むケースが多く、夫とともに仕事を失った妻たちの姿に、「女性たちが職を通じて、生きがいを持ってないか」と模索を始めたのが、今回の取り組みが

## ボランティア 飾り物作り委託

生まれるきっかけとなった。そこで出たアイデアが、チームに参加しているアパレルメーカーで、無農薬のオーガニックコットン製品を作る際に出た残布を活用する計画。被災地の女性たちの手で飾り物作りを依頼する計画を持ちかけたところ、被災地側の反応も上々だったため、年末に向けてクリスマス用飾りを作ることに決まった。

大指地区の女性十数人が参加したほか、同チームが活動をしている岩手県久慈市や、参加企業の委託工場のある同県陸前高田市の女性らも合流。総勢50人近くの女性たちが加わり、各地で製作を進めている。

## 職通じて生きがい、収入も

製作されているのは、星や靴下などをかたどった飾りや、ハート形をした手のひらサイズの飾りなど。いずれも、「東北グランマのクリスマスオーナメント」として販売する。すでに百貨店などで今月中旬以降に販売されることが決まっているほか、都内のケイキ店などの飾りとして利用される予定という。

販売されるのは、「オーナメント小5個セット」「オーナメント大1個(星形)」、「オーナメント大1個(ハート形)」の3種類。いずれも1000円で、このうち材料費などを除き、400〜200円前後が収入として被災地の女性たちに送られる。

「チームともだち」では、9、10の両日、宮城県石巻市の漁師や、岩手県久慈市の縫製工場経営者など被災者の体験を聞くセミナー「東日本大震災の被災者の『生の声』を聞こう!」を開催する。セミナーではオーナメントなどの製作過程を写真パネルや映像で紹介。一部のオーナメントを先行販売する。

セミナーは銀座文祥堂イベントホール(中央区銀座3)で。9日午後1時〜5時。10日午後1時〜午後4時半。詳細はチーム事務局(03・5778・4871)か、チームともだちのホームページ(<http://tomodachi.in/>)へ。